【実施区域・面積】

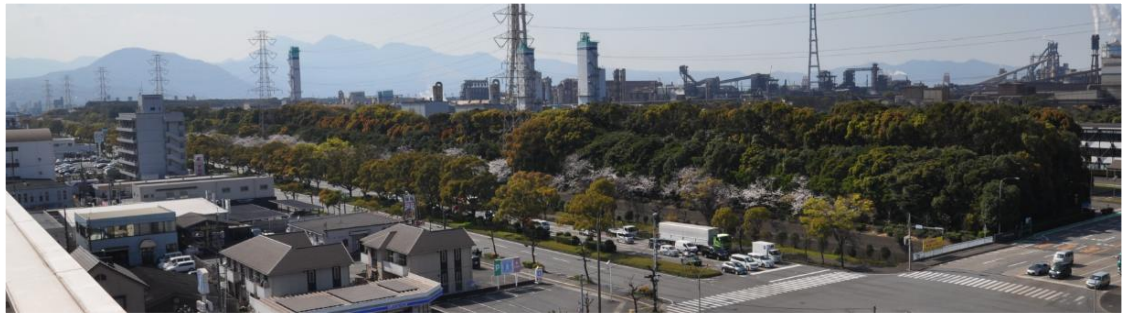
大分県、14ha

【生態系タイプ】

人工林

【実施区域の状況】

製鉄所発足（1971年）と同時に、当時横浜国立大学の故宮脇教授のご指導を受け、郷土の潜在植生調査に基づくエコロジー手法を工場緑化として初めて取り入れた環境保全林（郷土の森）である。植栽から50年が経過し、樹高は20mを超え、人工の森ではあるが優れた鎮守の森に成長し、防音、防臭、防塵等の工場緑化の枠を超え、その効果は生態系サービスとして地域住民への景観の癒し効果にも寄与している。



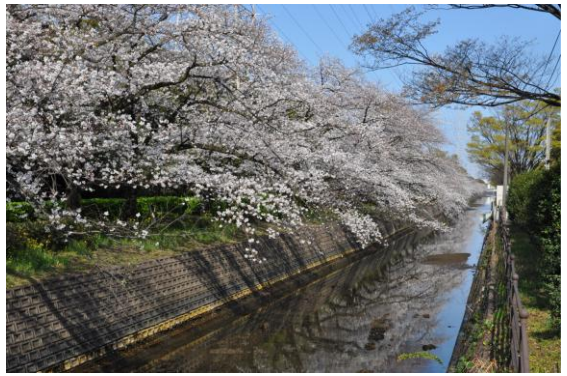
写真番号：１　　写真の撮影年月：２０２５年３月
写真の説明：　環境保全林（郷土の森）の状況

【目標】

都市工業地帯に形成された「宮脇方式」の郷土の森の環境保全林としての機能維持、故郷の森としての生物多様性および景観の保全を目指す



写真番号：２　写真の撮影年月：２０２４年５月
写真の説明：環境保全林内の状況



写真番号：３　写真の撮影年月：２０２５年４月
写真の説明：敷地境界の桜並木

【主な活動内容】

郷土の森の価値の見える化／郷土の森の維持・管理／桜並木の植え替え

【モニタリング計画】

植物、鳥類、昆虫のモニタリングを実施（2026～2027年、2029年）

【実施体制】

・日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区…全体管理、日常的な点検の実施
・株式会社グリーンエルム…植生に関するモニタリング、活動企画・支援
・NPO法人おおいた生物多様性保全センター…生態系モニタリングの実施、活動企画・支援

【計画期間】

2025年9月～2030年9月